

ゲーム型教材を用いたキャリア教育の実践 —学習者の批判的思考態度に着目して—

山口 恵実 (10117117)

1. はじめに

大学設置基準の改正により、様々な大学でキャリアガイダンスが行われるようになり、キャリア教育が注目されるようになった(文部科学省 2011)。しかしながら、実際に全学部でキャリア科目を必修として実施をしている大学は 41.9%と約半数以下である(日本学生支援機構 2019)。

近年のキャリア教育の実践として、福山ら(2019)の事例が挙げられる。福山らは、ジョブスタというゲーム型教材を用いたキャリア教育を実践し、現代社会に資する能力を向上させることを明らかにした。また、職業選択において社会との繋がりを重視する観点を持たせるなど、ゲーム型教材の有用性を示した。しかしながら、佐藤ら(2016)が述べるように、学習者の特性や実態によってキャリア教育における学習効果には差異があり、前述したジョブスタも例外ではないことが想定される。

一方、文部科学省は、キャリア形成における「基礎的・汎用的能力」を提唱しており、社会で求められる汎用的能力の重要性が高まっているといえる。また、汎用的能力のひとつに、「批判的思考」が含まれている。「批判的思考」は、自分の考えが正しいかどうかを振り返り、立ち止まって考えたりすることが本質にある(楠見ら 2015)。

そこで、本研究では本実践の学習効果に影響を及ぼす学習者の特性として、批判的思考態度に着目し、福山ら(2019)が開発したゲーム型教材を用いたキャリア教育における学習効果を明らかにすることを目的とした。

2. 授業実践

本実践は、長崎大学情報データ科学部 1 年生 30 名を対象とし、ジョブスタを用いたキャリア学習を実施した。ジョブスタは、未来で活躍できる仕事を考えるカードゲームである。本実践では、AI の普及や少子高齢化などを事例とした、実社会で起こり得るイベントに対して、農業や教育などの産業と、エンジニアやデザイナーなどの職業を掛け合わせ、未来の仕事を創造する活動をした。参加者らは、4~5名で構成されたグループにおいて、それぞれが創造した仕事について共有した後、未来の社会について議論した。

3. 評価方法

本実践における事前調査として、参加者を対象に批判的思考態度尺度(平山ら 2004)によるアンケートを実施した。なお、平山ら(2004)が示す4つの因子(「論理的思考への自覚」、「探求心」、「客観性」、「証拠の重視」)における大学生(426名)の平均値を参照し、各因子の上位群と下位群に分類することで、被験者間比較の要因を設けた。また、福山ら(2019)が評価指標として使用した、「キャリア計画性」、「キャリア自己理解」、「前向きな職業観」、「プロアクティブ行動」、「自己効力感」の5つの能力を用い、事前・事後調査によって被験者内比較の要因を設けた。以

上の2つの要因を設け、「批判的思考態度」の各因子を第一要因(被験者間比較)、「キャリア形成に資する能力の変容」を第二要因(被験者内比較)として、二要因混合比較による分散分析を行った。

4. 結果・考察

批判的思考態度の因子である「客観性」の上位群・下位群における、「キャリア計画性」・「キャリア自己理解」の事前・事後評価の平均値の変容を図1に示す。結果から、客観性が高い参加者は、本実践を通して「キャリア計画性」が有意に向上することが明らかになった(図1左図)。また、客観性が高い参加者は、本実践を通して「キャリア自己理解」が向上することが明らかになった(図1右図)。同様に、批判的思考態度の因子である「証拠の重視」における上位群においても、本実践を通して「キャリア計画性」と「キャリア自己理解」が有意に向上した。

「客観性」・「証拠の重視」上位群は、それぞれの質問項目から、「様々な面から物事を考え、結論をくだす」という共通点がある。したがって、キャリアに対する計画性や自己理解を高める上で、「客観性」や「証拠の重視」が学習者に求められることが示唆され、それらを意識した実践を検討する余地があることが示された。

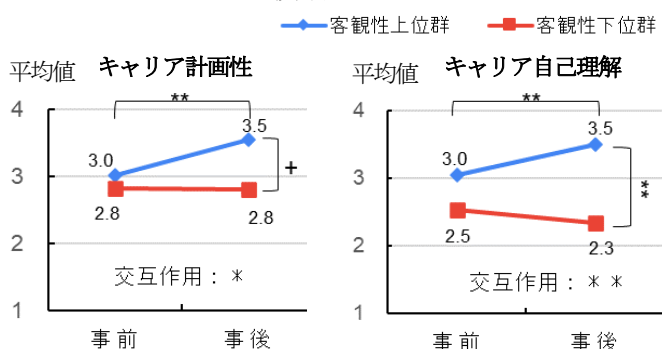


図1 客観性におけるキャリア計画性・キャリア自己理解の変容

5. まとめ

本研究は、学習者の特性として批判的思考態度に着目し、ゲーム型教材を用いたキャリア教育における学習効果を明らかにすることを目的とした。

その結果、批判的思考態度における「客観性」と「証拠の重視」が高い参加者は、本実践におけるキャリア教育の後に「キャリア計画性」と「キャリア自己理解」が向上することが明らかになった。今後の課題は、本実践で得られた基礎データをもとに、より詳細な学習効果を検証することである。

参考文献

福山祐樹, 見館好隆, 藤本徹, 浅見智子(2019) 大学生のキャリア形成に資するゲーム教材の実践 -社会とキャリアの関連性に着目して- 日本教育工学会論文誌 43(2): 127-138

(指導教員 中村千秋:義務教育開発講座)